

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

<b>rrr 自治体提示の地域課題名(注1)</b>	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
		中山間地域の高齢者にもやさしい市政情報の発信	静岡県浜松市
<b>チームがつけたアイデア名(公開)(注2)</b>	Thank You 天竜		

(注1) 地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

### 1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

<b>チーム名(公開)</b>	とことんてんりゅー		
<b>チーム属性(公開)</b>	1. 市民, 2. 市民／学生混成, 3. 学生 <span style="color: red;">ドロップダウン選択→</span>	2. 学生	
<b>チームメンバー数(公開)</b>	7名		
<b>代表者(公開)</b>	金子侑生		
<b>メンバー(公開)</b>	片岩拓也、大城怜斗、長内周平、内藤麻友、鈴木菜月、諸岡成		

**【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。**

#### ＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

#### ＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名（[メンバー一覧ページ](#)を参照）、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：  
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。  
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

#### ＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 →

OK

#### ＜チームメンバー名簿:[メンバー一覧ページ](#)＞

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

**アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。**

#### (1) アイデアの内容(公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、[どのような社会的活動\(サービス\)を行うのかを具体的に示してください。](#)

## 2. アイデアの説明（公開）

### (1) アイデアの内容（公開）

将来実現した場合に、新規性があり、実践したくなり、魅力的でワクワクするようなアイデアを求めます。その結果、課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。2 ページ以内でご記入ください。

※応募チームとして解決したい課題のポイントを、以下にごく短く書いてください

<解決したい課題のポイント>

◆浜松市の中山間地域における情報格差の緩和

◆住民のニーズにあった情報の提供、情報発信に関するフィードバックの獲得

※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

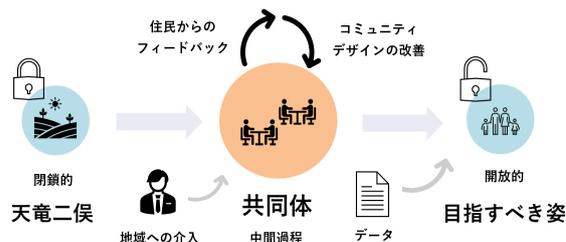
(参考)よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感(使う人の立場になってみる)が大切です。

<提案するアイデアの内容>

◆アイデアの概要:

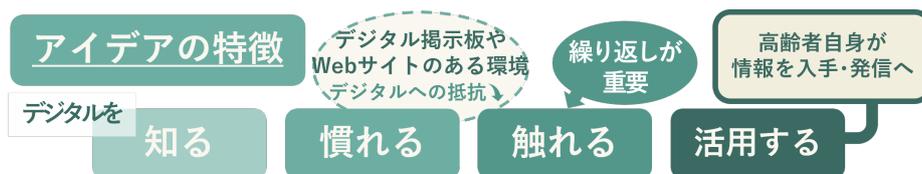
『中山間地域の高齢者にもやさしい市政情報の発信』という課題解決に向けて、浜松市の中山間地域である天竜二俣地域、高齢者の情報格差の是正を目的とした新たなコミュニティを形成する。このコミュニティでは、人々が互いに情報を共有し、高齢者がデジタルに慣れるための場を提供する。しかし、得られたヒアリング調査の結果から、部外者である私たちと、地域住民との間に壁がある。なぜなら、天竜二俣地域は、複合要因から閉鎖的な共同体を形成しているからである。実際の取り組みとして、これを一度に紐解くのは難しい。そのため、段階的で、かつ滑らかな解決策が望ましい。デジタルに対する不信感を抑えるための段階的な課題解決を目指すにあたって、あくまでデジタルを情報受信手段の内の1つとして提供し、デジタルを「使わせる」のではなく「使える」環境を作ることを目指す必要がある。

この現状の問題を熟慮し、私たちは「コミュニティデザイン」を通じた段階的な解決策を提案する。この解決策は、大きく分けて、共同体形成の段階と、その場を足掛かりにしたこの共同体を活用しながら、繰り返し改善を行う段階を持つ。以下に、各段階における具体的な取り組み、その目的、プロジェクトへの寄与の仕方を順に説明する。



◆アイデアのコンセプト:

高齢者がデジタルに馴染むまでのプロセスとして、①デジタルの利便性を「知る」、②デジタルの存在に「慣れる」、③実際にデジタルに「触れる」、④デジタルを「活用する」という4つの段階をデザインする。



「知る」・・・デジタル機器\*による情報発信の形、情報の入手などの役割について知る。

「慣れる」・・・デジタル機器のある環境に身を置くことによって、デジタルへの抵抗感を緩和する。

「触れる」・・・実際にデジタル機器を利用して、繰り返し操作を行い、使用方法を身につけていく。

「活用する」・・・高齢者が日常的にデジタル機器を活用し、自ら情報を手に入れ、やがて発信出来るようになる。

\*ここで使用する「デジタル機器」とはスマートフォンをはじめとした、情報の発信入手に関する電気で動く機械を指す。

高齢者がデジタル機器を「知り」、「慣れ」、「触れ」、「活用する」までをサポートするためにカフェの運営を提案する。また、この取り組みと同時に、天竜二俣地域の持つ情報発信に関する課題をより包括的に解決するために、地域性の高い情報発信を行う独自の Web サイトを制作した。(今後出てくる「Web サイト」という言葉はこれを指す)

◆情報共有、デジタル体験促進のためのカフェ運営(サードプレイスの実現)

目的:地域住民をはじめとした人々が自由に情報を共有することができ、高齢者のデジタル慣れを促進する物理的な場。レイ・オルデンバーグのサードプレイス理論に基づき、家庭や職場以外の「気軽に訪れられる場」を提供する。この場は、地域内外を問わない人々の交流、市政情報についての対話を促進する役割を果たす。また、デジタル機器に

## 2. アイデアの説明（公開）

### (1) アイデアの内容（公開）

親しむ場を創出することで、高齢者のデジタル活用のハードルを下げる。

「知る」・・・カフェにて行われる情報発信を認識することで、デジタル機器の利便性について知る。

「慣れる」・・・デジタル掲示板が設置された店内で、デジタル機器の存在に慣れ、抵抗感を緩和する。

「触れる」・・・スマホ等に触れる機会を長期的に創出し、繰り返しデジタル機器の操作を行うことをサポートする。

「活用する」・・・後述の Web サイトの利用や、自身の欲しい情報の入手、やがては発信を行うようになる。

#### ・副次的機能

高齢者向けにデジタル機器の基本操作を教える環境を高齢者に提供する。高齢者個人のスマートフォンを始めとするデジタル機器の活用状況をきめ細やかに把握し、フィードバックを受け取り、1人1人に合ったサポート、情報発信の改善を行う。また、カフェ内に、デジタル掲示板を設置し、そこで Web サイトの情報と、その Web サイトに到達するための QR コードを掲載する。これによって、Web サイトと高齢者をつなぎ、彼らのニーズを満たす情報発信を実現する。

このアイデアが実現した場合、当該コミュニティは地域住民を含む、たくさんの人が気軽に集まり、対話を通じて地域の魅力や課題についての理解を深める場となりうる。この場を通じて得られたアイデアや住民の意見は、ウェブサイトの改善や新たな地域活性化のプロジェクトの創出に繋がる可能性がある。

#### ◆地域特化型 Web サイトの構築

**目的:** この Web サイトは、地域の情報発信・受信の中核を担うデジタル基盤としてデザインされる。地域内外の情報流通を促進するための機能を持たせる。高齢者にも配慮したインターフェイスを採用することで、利用者間のデジタル技術の習熟度の差による技術的な格差を緩和し、情報格差の解消を目指す。また、情報が一元的に収集されることで、地域の可視化が進み、住民が自身の文化や価値を再認識する契機になることが期待される。

#### ・Web サイトの機能

**地域情報の集約:** 地域イベント、観光地、特産品情報を一覧化。(地域住民のニーズに対応)

**高齢者にやさしい設計:** 大きな文字サイズ、直感的な操作、検索ウィンドウの無い情報サイト。

**天気予報や占いなどの日替わり機能:** ウェブサイトに訪れるための動機付け。

**住民参加型の投稿機能:** 地域の歴史や文化に関するコンテンツを住民自身が発信。

**観光客向けの特別コンテンツ:** 地元住民によるおすすめスポット紹介やエピソード共有。

#### ・副次的機能

住民が主体的に参加する仕組みを通じて、天竜二俣地域の暮らしの写真がサイトにストックされる仕組みを構築する。これにより、中山間地域のありのままの姿を残すことや、本地域に根差した文化の保護が可能になる。したがって、住民は web サイトの利用を通じて、おのずと文化保全に協力することができ、そのデータは私たちの研究への利用なども行えると考える。

ただし、ヒアリング調査よりデジタルに抵抗感を持つ人がいることが明らかになっており、全ての人に「触れる」、「活用する」ことを求めるのは不適である。そのため、カフェの中に設置したデジタル掲示板のように、負担を感じないような情報発信の形も重要視する。

**先端情報学実習という仕組みを説明、制度を活用し、中長期的な天竜との関わり合いを実現する。**

上記を実現する主体として、学生を挙げる。静岡大学情報学部では、「先端情報学実習」という学生が主体的かつ実践的な情報学研究に、長期的に取り組める授業が存在する。当該授業では、学生がプロジェクトを企画提案することが可能で、自ら研究課題を設定して研究活動を進めることが可能である。この仕組みを活用することで、学生は単なるボランティアではなく、継続的な研究活動の一環として天竜地域に関わることが可能になる。その結果、地域への参与活動は短期的ではなく、むしろ継続的で、目標に対してより効果的に寄与することが期待される。

### (2) アイデアの理由（公開）

**次にアイデアを提案する理由（なぜ）**について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ **2 ページ以内**で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由(なぜ)を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

#### ◆天竜区に住む高齢者 × 市の”デジタル推進”

浜松市天竜区および浜名区引佐町北部は中山間地域と区分されている(浜松市中山間地域振興計画より)。図1から分かるように、浜松市の中山間地域では深刻な高齢化が起こっている。また、情報通信白書によると、70歳以上の人のスマートフォンやタブレットの利用状況は6割が利用していないと回答しており

(図2)、全国的に、デジタル化する現代社会に対して、高齢者が置いていかれている現状がある(総務省 2021)。

一方で浜松市では、令和4年7月1日に「浜松市デジタルを活用したまちづくり推進条例」が施行され、デジタルを活用したまちづくりが極めて重要であるとしている(浜松市 2022)。上記の内容と併せて考えると、浜松市の中山間地域では、デジタルを利用しない高齢者と、デジタルを推進する浜松市との間で、取り残される高齢者の存在が推察される。

	浜松市全域 (浜名湖含む)	中山間地域	市全域に 占める割合
面積	1,558.11km <sup>2</sup>	1,022.81km <sup>2</sup>	65.6%
森林面積	1,023.85km <sup>2</sup>	923.99km <sup>2</sup>	90.3%
人口	786,792人	27,798人	3.5%
高齢者人口	226,421人	13,190人	5.8%
高齢化率	28.8%	47.4%	-
人口密度	505人/km <sup>2</sup>	27人/km <sup>2</sup>	-

図1 「数字で見る中山間地域の課題」 浜松市

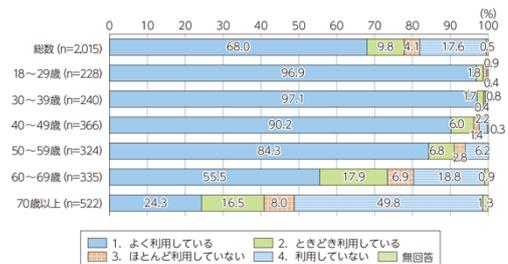


図2 「スマートフォンやタブレットの利用状況」 総務省(2021)

#### ◆天竜二俣地域での高齢者の実情(現地でのインタビュー調査をもとに)

この現状をもとに浜松市は「中山間地域の高齢者にもやさしい市政情報の発信」という課題を設定した。私たちはこれについて、より天竜区にフォーカスした現状を把握する必要があると考えた。そこで、天竜二俣地域(中山間地域に区分される天竜区の南部に位置する地域)へ足を運び、地域住民にインタビュー調査を行い、スマートフォンの利用状況や、現在の市の情報発信について話を伺うことにした。以下にその調査結果を記載する。

##### ・天竜二俣地域で開催された「酉の市」におけるインタビュー調査 2024/11/23(土) 対象:天竜二俣に住む6名

多くの住民は市政情報を、紙媒体である『広報はままつ』から得ていることが分かった。しかし、住民の多くは、『広報はままつ』の天竜区に関する情報の少なさを問題視していた。地域の情報については、回覧板や人づてに聞くことがほとんどであるという。また、高齢者の方々は「デジタル媒体から市政情報を入手していない」という声が多かった。

##### ・クローバー通り商店街の代表と副代表のお2人へのインタビュー調査 2024/12/3(水)

地域の高齢者の実情に詳しいお2人に、地域住民の話を聞いた。多くの住民はスマートフォンについて、電話やLINE など連絡手段としての機能は使うものの、情報を入手する手段として使う事は少ないという。その理由として「文字を打ち込んで調べるのが大変」「情報漏えいに対する不安感」が挙げられた。高齢者向けのスマホ講座に対しては、普段使う事がないため、継続性がなく学びが定着しにくいとの課題が指摘された。スマートフォンに関して困った時は、地域の若者に聞くことが多いという。「日常会話の中で市政情報やイベントの話題が共有されることが多い」という話が再び上がり、住民間の情報交換が重要な役割をはたしている事が分かった。

#### ◆なぜ「コミュニティ」の形成が必要なのか

過去のインタビュー調査より、地域住民は駅周辺に住む浜松市民のことを「浜松の人」と呼称することや、天竜市が浜松市に合併された過去などを鑑みると、天竜区が地理的にも心情的にも閉鎖された空間であることが推測できる。

## 2. アイデアの説明（公開）

### (2) アイデアの理由（公開）

そのため、デジタル格差の是正をはじめとする本地域が抱える諸課題は、外部からの一過性の押し付けではなく、私たちが緩やかに現地になじんでいくことで、そこに住む地域住民との信頼関係を構築し、中長期的な目線で解決するべきであると認識した。

つまり、スマートフォンを情報収集の手段として使わない高齢者に対し、外部からの指示で「Web サイトを使わせる」だけでなく、「高齢者がデジタルを活用するに至るまでの環境づくり」をすることが大切であると考え、「負担」が少ない手段で高齢者をデジタル情報の活用サイクルの中に取り込むことが出来る、「コミュニティカフェ」を提案するに至った。

#### ・情報発信に関するフィードバックの必要性

現状、浜松市は情報発信に関するフィードバックをとっておらず、天竜区の実情を把握するデータが存在していなかった。そこでカフェを運営する中で、フィードバックをとる体制を作ることで各個人がどのような情報を欲しているのか、どのような状況にあるのかについての情報を得ることが出来る。それによって、より天竜区のニーズに合った、情報発信や、デジタル機器に関するサポートが提供できるものと期待される。

#### ・デジタルサイネージを置く理由

「情報漏えいに対する不安感」というデジタルへの懐疑的な姿勢や、スマートフォンを必要としない生活実態より、スマートフォンを触らない、触れない層へのアプローチも必須である。そのため、情報の受け取りの際に負担のかからない「デジタル掲示板」の設置が有効であると考え。またオープンで開かれた場所であるカフェが、人々の集まりの場としての機能を有し、交流による情報交換が促進されることが期待される。

#### ・Web サイトを作った理由

インタビュー調査から現状、市から提供される市政情報は天竜区の情報が少なく地域情報を求める住民のニーズとのミスマッチが起こっていることが分かった。また、「検索ウィンドウで検索するのが難しい」という声もあった。そこで、私たちは天竜区の情報に特化した情報発信ツールとして Web サイトを作成した。この Web サイトは、QR コードを用いる事で、情報の受け手側は調べる過程が必要なく、受け手側の負担を減らすことが出来ると考えられる。

#### ◆なぜ「先端情報学実習」の制度を利用するのか

過去に本学が行ったインタビュー調査の中で、一時的な参入や、研究・勉強の為だけのインタビューが問題視されている事が明らかになっている。そのため、静岡大学に所属する私たちが継続的に天竜に関与する活動が必要であると考えた。そこで、私たちの所属する情報学部での取り組みである、「先端情報学実習」の制度を利用することを提案した。これによって、中長期的な人材の確保や、取り組みの体系化が見込まれる。

#### ・学生がカフェを運営する事による効果

私たち大学生が主体となってカフェを運営する事で現状、「スマートフォンに関して困った事があった時に地域の若者に聞く」といったニーズに答えられると考える。また、スマートフォン講座とは違い継続的に関わるため、困りごとを聞く場としての機能も有していると考え。

## 3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

<以下のように分けて書いていきます>

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト, モノ, カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

◆**実現する主体とその役割について**

・主体: 学生, 天竜区民, 浜松市

**学生:** 現地のコミュニティ活動への参加や, カフェの運営を通して, 天竜に住む人々との信頼関係を築く。従来のような, 一方向性の関係性ではなく, これまでの研究活動や, 参与観察で天竜から受け取った利益を, 「デジタル格差の是正」という形で還元することを目的とする。加えて, 将来的な天竜での研究活動にもこの関係値を活かしていくことが可能である。

**天竜区民:** 高齢化という問題を抱える天竜に住む人々。本プロジェクトの中では, 主に高齢者をターゲットとし, 彼らがデジタル機器を通じた市政情報の発信に触れ, 市政情報の受け取りに関する情報格差の是正が望まれる。また, 将来的に住民が自ら情報の発信を行うようになることで, 彼らが文化保全の重要なアクターという役割を, 知らずのうちに担うことが出来る。

**浜松市:** 補助金等で本取り組みを支援し, カフェを運営する学生を通じて情報発信に関するフィードバックを得ることで, 天竜区に関するデジタルの実態をつかみ, 情報発信の形を改善していく。

—その他協力者として考えられる団体: 地元企業, NPO 団体, 観光協会, 浜松山里いきいき応援隊

◆**実現に必要な資源(ヒト, モノ, カネ)**

ヒト

学生有志: とくに主体的に本プロジェクトを主導する運営層かつ中核となるメンバー。

先端情報学実習生: 先端情報学実習を履修している静岡大学生。

ボランティア: 学生以外の浜松市民などの本プロジェクトへの参加を希望する人。

開発者: システムやウェブ開発を行うエンジニア。前提として静岡大学の情報学部生を想定する。

行政: 市役所などの行政団体の職員。市政の情報の発信についてのプロデュースをする。

NPO: 資金や人材面で協力してくれる地域おこしなどを主とした法人団体, およびその人員。

モノ

デジタル機器(スマートフォン, モニター, PC, Wi-Fi 周辺機器)

Web サイト(<https://cog2024hamamatsu.vercel.app/main>)

カフェ拠点(「森のマルシェきこり」のフリースペース, 空き家バンクを利用)

カフェ設備: ドリンク, 食器類, 機械類, 家具類等

カネ

予算…最大 200 万

○ 調達方法:

補助金, クラウドファンディングを利用する。以下の調達方法を想定。

① 「市民提案による住みよい地域づくり助成事業」: 上限 200 万円

令和七年度の募集要項は未定であるが, 過去数年に募集があったため, 令和 7 年度も募集があると判断した。

② 「浜松市空き店舗等利活用事業費補助金」: 上限 50 万 & クラウドファンディング: 目標 150 万円

支出

主に「モノ」で取り上げた物品や, サイトの運営費, 通信代, 光熱費等が継続的な支出として挙げられる。空き家バンクを利用したカフェ営業の段階に入ると, カフェのリノベーションや家具類等の追加購入が必要になる。

◆実現にいたるプロセス

第1期（2024年10月～12月）→現在すでに行ったこと

・課題のインタビュー調査

浜松市が天竜にフォーカス情報を持っていない現状より、実際に天竜へと足を運び、2度のインタビュー調査を行った。

・Webサイトのプロトタイプ開発

ヒアリング調査の結果を参考にして、天竜地域の情報に特化した「高齢者でも使いやすいであろうWebサイト」を作成した。今後、地元住民との関わりを通じて、より利便性の高いWebサイトに更新していく予定である。

・天竜二俣のイベントにおけるボランティア活動

2024年11月23日(土)にクローバー通り商店街にて開催された「西の市」に、学生ボランティアとして参加した。

第2期（2025年1月～）

【先端情報学実習】

・先端情報学実習の立ち上げ計画（2025年1月～10月）

先端情報学実習において、現COGメンバーが本取組みを新規プロジェクトとして提案を行う。本取組みが先端情報学実習において新規プロジェクトとして採択され次第、先端情報学実習生を募集する。5月に先端情報学実習を行うメンバーを確定する(履修登録時期の関係)。ここから、秋の「カフェ試験運用」に向けて実際の稼働計画を作成する。

【カフェ】

必要な資金と人材確保。先端情報学実習のメンバーが集まるまでは、現COGメンバーが中心となり、市役所や、天竜の人とのかかわりを保ち、カフェ運営開始を目指して行動する必要がある。また、他の研究室が運営するコミュニティづくり活動について学ぶ。

第3期（2025年秋～）

・カフェの試験運用開始

「森のマルシェきこころ」のフリースペースをお借りして、カフェの試験運用をする。試験運用は数回にわたって行い、この結果次第では、この後の第4期に移行する。持続的にカフェを行える場をデザインするために、空き家を確保し、リノベーションする。

第4期（未定）

・カフェOPEN(空き家利用)

空き家にてカフェをオープンし、交流の場をデザインする。この場で得たフィードバックをカフェの運営やWebサイトの更新に活かし、PDCAサイクルを回していく。

